

---

# 嘘ノ鏡

岡谷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

嘘ノ鏡

### 【Nコード】

N5385F

### 【作者名】

岡谷

### 【あらすじ】

少女は鏡を拾った。しかしその鏡のなかには自分ではない顔が映っていた。

少女は再びその手鏡を見た。鏡の中には美しい少女の顔があった。「・・・違う。やっぱり違う。これはわたしの顔じゃない」

少女は困惑した。

「わたしはこんな顔じゃない。わたしは、わたしはもっと醜い顔だ」少女は目の前の川を見つめた。

「これ、誰かの落とし物なのかな？」

少女はその鏡を目の前の川で拾った。石に引っ掛かっていたのだ。「・・・これ、どうしよう」

結局少女はその鏡を持ち帰ることにした。家に帰ってから再び少女は鏡を見た。

「・・・ああ、なんて綺麗な顔なんだろう。わたしの顔とは大違いだわ」

少女は見とれていた。そして少女はそれ以後その鏡しか見なくなつた。自分の本当の顔を見るのを恐れて家中の鏡を隠してしまつたのだ。どうしても動かせない鏡には布を被せた。それでも、ただ一つだけ手元に置いておかなくてはならない鏡があつた。それは死んだおばあちゃんの形見の手鏡だつた。少女は大のおばあちゃん子だつた。

しかし、少女はその鏡にも蓋をして使えなくした。

外には鏡が無数にあるからと言って少女は家から出なくなつた。

少女の親は心配した。しかし、だんだんと日を重ねるごとに自分の娘のことを不気味に思えてきて気が付くと少女を避けるようになっていた。

少女は部屋にいる時いつもその鏡を見ていた。見れば見るほど鏡

の中の少女は美しく、いつしか少女は恋に近い気持ちを抱いていた。

ある日、少女は約二週間ぶりに家の外に出た。落し物を探すためだ。

それはいつもバックに付けているマーガレットの花の形をしたキーホルダーで少女がとても気に入っていたものだった。鏡に夢中になっていた少女はキーホルダーをなくしたことを今日まで気が付かなかったのだ。

少女は「もしかしたらこの鏡を拾った河原で落としたのかも 아닐」と思いバックの中に川で拾った鏡とおばあちゃんの鏡の二つの鏡を入れ河原へと向かった。もちろん家の外に出るのにはかなりの勇気が必要だった。しかし、少女にとってそのキーホルダーはかけがえのないものだったのだ。

カーブミラーや、家や車の窓ガラスなど自分の姿を映すありとあらゆるものから身を隠し、やっと少女は河原へと辿りついたが結局キーホルダーは見つからなかった。

シヨックを受けた少女だったがバックの中から鏡を取り出して鏡を見た。鏡の中の少女を見ると不思議と気持ちが悪くなった。

少女はそのまま鏡を見続けた。

しばらくすると叫び声のようなものが聞こえた。少女は顔をあげた。すると目の前から女の人が走ってくるのが見えた。

「・・・その鏡のせいで、その鏡のせいで私の顔は」  
女の人はそう言いながら少女のもとへと走って来た。

「そんな鏡、壊してやる！」

そう言っただけ少女が手にしている鏡を取ろうとした。

少女は驚いてすぐに鏡をバックの中に入れた。

「な、なにするんですか！この鏡はわたしの鏡です」

少女は細い声を大きくしてそう言った。

「うるさい！その鏡のせいで私の顔は醜くなってしまったのよ！そんな鏡なんかなくなればいいのよ！」

女は少女のバツクごと取ろうとした。少女は絶対に取られまいと必死にバツクを胸に抱えた。

「やめて！この鏡がなくなったらわたしはこの醜い顔のままになってしまう！」

そう言っただけ少女は女を突き飛ばし石に躓きながら必死に逃げた。

必死に走った少女は気が付くと家の前にいた。後ろを振り向いたが後ろには誰の姿もなかった。女から逃げられたのだと安心した少女だったが、もしかしたらまだ女が追ってくるかもしれないと思い急いで家の中に入り自分の部屋に駆け込んだ。

「はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・」

部屋のドアを閉め、もう大丈夫だと思った少女は鏡が無事か見るためにバツクの中から鏡を取り出した。

「・・・良かった。どこも壊れてない」

鏡の中にはいつもと同じ美しい少女の顔があった。

しかし、気が動転している少女は気が付いていなかった。その鏡が、暴れたせいで蓋が外れてしまったおばあちゃんの鏡だということ。

(完?)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5385f/>

---

嘘ノ鏡

2010年10月31日04時59分発行